

偉人 坪内逍遙

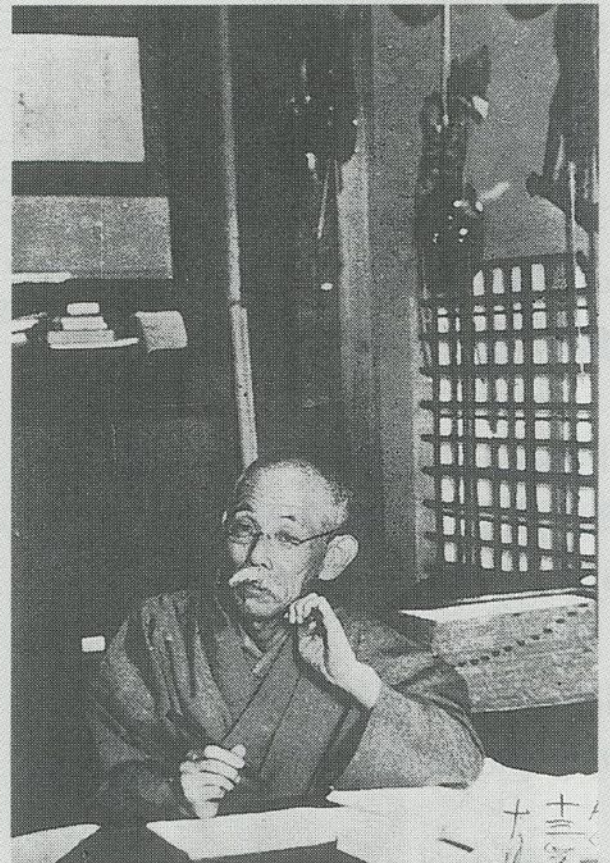


柿 叟 (逍遙の雅号)

逍遙は人に頼むのを嫌い、迷惑や負担をかけることを好みませんでした。どんなに忙しい仕事があっても、また気分の優れないようなときでも、締切り日前には必ず原稿を届け、編集者の労をいたわっていました。

晩年に手掛けた『新修シェークスピア全集』の翻訳では、自分の体が病魔に襲われていることを知りつつも、修正や校正に労を惜しみませんでした。病状が悪化したときには、『新修シェークスピア全集』の最終回分の修正・校正や自分の葬儀までもを、後輩に驚くほど明確に指図したのです。

逍遙の文学や演劇に対する精神力と芸術欲は、死をむかえるまで衰えませんでした。



書齋で執筆中の逍遙博士